地域情報サービス論

2016/04/15

授業計画　1

1. ガイダンス／公共図書館の役割を考える
2. ユネスコ公共図書館宣言
3. 公共図書館の歴史1 米国
4. 公共図書館の歴史2 英国
5. 公共図書館の歴史3デンマーク／公共貸与権
6. 地域を支える情報拠点としての公共図書館
7. 公共図書館サービスの事例1
8. 公共図書館サービスの事例2

授業計画　2

9　公共図書館サービスの事例3
10 公共図書館サービスの事例4
11 公共図書館サービスの事例5
12 公共図書館のビジネス支援サービスを計画する
13 図書館利用の障害をなくす
14 公共図書館の有料サービスについて考える
15 これからの公共図書館／まとめ
16 テスト

履修上の注意と評価

〇履修上の注意

・事前の課題にそって授業内で意見を発表してもらうことがあります。
準備をして授業に出席してください。

・テキスト(『図書館学基礎資料集　第12版』)は毎回持ってくること。

〇評価

・レポート50%、テスト50%の合計で評価します。

・レポートは3回でレポート1 10%、レポート2 10%、レポート3 30%です。
レポートの内容については随時指示します。

公共図書館の役割を考える１

津野海太郎「市民図書館という理想のゆくえ」(プリント1)
『図書館雑誌』1998年5月号に発表
『だれのための電子図書館?』(HONCO双書　1999)所収

〇　文章を読んで、問いに答える(出席カードに解答)
〇　補足説明
〇　もう一度、問いについて考える
〇　解説

「市民図書館という理想のゆくえ」での、筆者の主張と合っていると考えるものを選びなさい。

① 図書館にゆったりと本を読むことのできるスペースがほしい。

② 近所に使いやすい図書館がなくて困っている。

③ 公共図書館がベストセラー本を20冊、30冊と購入した結果、書店で本の売り上げが減少している。

④ 無料貸本屋化してしまった公共図書館を見て、1960年代、70年代の市民図書館運動が間違っていたのだと考えている。

⑤「読まれない本は本ではない」というかつての市民図書館運動の主張は、「売れない本は本ではない」という主張と同じである。

⑥ 一年間に出版される本のタイトル数が増えたため本が荒れなくなり、本が売れなくなったため結果出版点数が増えてしまった。

⑦ 公共機関である図書館は本の公共財としての側面にかかわる。

⑧「売れる本」は書店に任せ、図書館は「売れない本」を購入・保存することで、本の文化の多様性が支えられる。

⑨ ちょっと読みにくい、あまり大衆的に売れそうにない本も、電子化されることで生き残っていく。

⑩ 本の電子化が進むことに対して、図書館人が批判的な提言を行うことを期待している。

⑪ 貸出率だけで利用状況を示していては、地域の図書館は国や行政の冷酷なあしらいから身をまもることはできない。

公共図書館の役割を考える　2

補足説明1　『市民の図書館』(『図書館学基礎資料集　第12版』樹村房 p.91)

1970年に日本図書館協会が出版

「市民」とは

重点　貸出、児童サービス、全域サービス

関連用語

予約制度、リクエスト制度　(『図書館学基礎資料集　第12版』 樹村房　p.111)

複本

公共図書館の役割を考える　3

補足説明2　1950年代の課題　開かれた図書館を目指して

(『公共図書館サービス･運動の歴史2』 日本図書館協会　2006)

『図書館ハンドブック』増訂版　(日本図書館協会 1960)　プリント2

館内閲覧と閲覧室

閉架　　安全開架　　半開架　　開架

館外貸出(個人)と登録手続き

館内閲覧から館外貸し出しへ

帯出券の交付

公共図書館の役割を考える　4

補足説明3　『中小都市における公共図書館の運営』(略称「中小レポート」)

(『図書館学基礎資料集　第12版』樹村房　2015　p.97　)

1963年　日本図書館協会中小公共図書館運営基準委員会が作成

中小公共図書館＝市町村立図書館(大図書館＝都道府県立図書館)

利用者は生活圏にある地域の図書館を望んでいる

図書館奉仕の中でも館外奉仕(貸出)を前面に押し出す

分館、貸出文庫、BMで全市的なサービスの展開を強調

図書館予算の獲得のために

図書館が住民に奉仕→住民の支持→議員を通じて議会に反映

公共図書館の役割を考える5

日野市立図書館　「中小レポート」の実践例

1965年9月　移動図書館「ひまわり号」 1台でサービス開始

貸出重視

全域へのサービス

資料が第一という運営方針　児童書の割合を高くしたところ、児童の貸出率が高くなった

1966年4月～1967年2月

人口に対する登録率　12.6%

人口に対する貸出率　2.7倍

いずれもこの当時の公共図書館のトップ

1966年6月　高幡図書館開館(分館)

1973年4月　中央図書館開館

1977年12月 市政図書室開室

公共図書館の役割を考える6

補足説明4　日本の出版事情

出版流通　(『図書館学基礎資料集　第12版』p.91)

出版社→取次店→小売書店→読者　が主流

関連用語

再販制度価格維持制度(『図書館学基礎資料集　第12版』樹村房 p.91)

委託販売制度

公共図書館の役割を考える7

〇もう一度、先の問いについて考える

〇問い の追加

公立博物館(美術館)の中には入場料が必要なところがある。

(浜松市美術館　館蔵品展　大人300円、高校生150円)

なぜ、同じ公立の施設で、博物館(美術館)は有料で、図書館は無料なのかを考える。

公共図書館の役割を考える8

解説

図書館の基本的な役割--情報の提供

○情報が記録されているもの(媒体)を収集する

印刷・製本された資料(本や雑誌)など

○将来にわたって利用できるように保存する

○すぐに探し出すことができるように組織化する

○利用者の要求に応じて情報を探す

○利用者に情報の探し方を教える

○利用者に情報を紹介する

読書案内(『図書館学基礎資料集第12版』p.101)等

公共図書館の役割を考える9

「読まれない本は本ではない」

ランガナータン「図書館学の五法則」(『図書館学基礎資料集第12版』p.64)

第1法則　図書は利用するためのものである

第2法則　いずれの読者にもすべて、その人の図書を

第3法則　いずれの図書にもすべて、その読者を

公共図書館の役割を考える10

○利用者の要求に応じて提供する

レファレンス・サービス(『図書館学基礎資料集　第12版』p.112)

レファレンス・サービス(狭義)

レフェラル・サービス(『図書館学基礎資料集　第12版』p.112)

カレントアウェアネス・サービスとSDIサービス

(「カレントアウエアネス検索」『図書館学基礎資料集　第12版』p.82)

○現実生活にある課題への対応

ビジネス情報サービス(『図書館学基礎資料集　第12版』p.105-106)

医療情報サービス(『図書館学基礎資料集　第12版』p.77)

公共図書館の役割を考える11

図書館と電子情報

種類

パッケージ系
ネットワーク系

✕

印刷情報などを電子化したもの
ボーンデジタル

＋

契約方式

文字情報
音声・映像情報

著作権が消滅
著作権が存続

詳しいことは、図書館情報資源概論
図書館情報技術論で

公共図書館の役割を考える12

図書館の利用上の障害を取り除く

障害者サービス(『図書館学基礎資料集　第12版』p.91-92)

多文化サービス(『図書館学基礎資料集　第12版』p.97)

課題

ユネスコ公共図書館宣言1994年(『図書館学基礎資料集　第12版』p.48-50)
を来週までに読んでおくこと。